



[文化・芸術のまち京都]
祇園祭

景 088 (H28) 歴 078 (H28)

清水焼の中心地である東山五条南西にある河井寛次郎記念館は、清水焼の名工五代目清水六兵衛の登り窯を、河井寛次郎が買い求め「鐘溪窯(しょうけいよう)」と名付けて、生涯暮らした自宅です。

この記念館では、大正から昭和にかけて京都を拠点に活動した陶工河井寛次郎の住まい兼仕事場を広く一般に公開しています。

現在の建物は、室戸台風の際、当初の住居部分が損傷したため、寛次郎自らの設計と郷里島根県安来の大工である兄・河井善左衛門の施工により、昭和12年に建てられたものです。

主屋は、木造瓦葺き2階建てで、妻入り寄棟造、正面は出桁造です。寄棟造は、郷里安来の妻入り入母屋造の大型町家の形態を京都の町並みに調和させたものです。出桁造は、柳宗悦や濱田庄司らとともに民藝運動に深く関わっていた寛次郎が民家の美として取り入れたものといわれています。正面は1階2階ともに平格子、1階南側は仕舞屋格子に近く、1階北側と2階は縦棧の間隔が広く、開放的な印象です。

外壁は京壁で、平面は中央に吹き抜けのある板張りの広間を中心に居室が配置され、広間の階段が2階へ通じるなど、京都の町家としては珍しい構成となっています。



吹抜



登り窯



〒605-0875 京都市東山区五条坂鐘鑄町569

電話/FAX 075-561-3585

アクセス 市バス「馬町」徒歩1分

ホームページ <http://www.kanjiro.jp/>